



《会計・税務の知識》株式公開(IPO)実務の基礎②

はじめに

2014年も後半戦に突入しましたが、今年は西武ホールディングスの再上場や、飲食チェーンの鳥貴族の上場など、話題性のある多種多様な会社の証券市場への上場が相次いでいますね。普段ニュースで目にするこの「証券市場」にはどのような種類があるかご存知でしょうか？

そこで今回は、日本の株式市場について簡単にまとめてみました。

1. 日本の証券取引所

日本には証券取引所が4つあり、それぞれ異なった特徴があります。

証券取引所	本則市場		新興市場			プロ向け市場	上場会社数
東京証券取引所	東証一部	東証二部	マザーズ	JASDAQ スタンダード	JASDAQ グロース	TOKYO PRO Market	3,427
名古屋証券取引所	名証一部	名証二部	セントレックス			-	300
福岡証券取引所	福岡市場		Q-Board			-	116
札幌証券取引所	札幌市場		アンビシャス			-	59

(2014年6月23日現在。各証券取引所HPを基に作成)

この中でも東京証券取引所（以下「東証」）は2013年7月に大阪証券取引所（以下「大証」）と統合され、上場企業数及び時価総額で世界第3位の巨大な市場となり、多くの企業が東証への上場を目指しています。

2. 東京証券取引所の各市場の特徴

次に、東京証券取引所に開設されている市場について見てみましょう。

東証における市場		上場会社数	対象企業
本則市場	一部	1,822	会社規模が大きく財務基盤がより強固な大企業向け (東証二部よりも上場審査基準が厳しい)
	二部	544	会社規模が大きく財務基盤が強固な中堅企業向け (マザーズよりも上場基準が厳しい)
新興市場	マザーズ	193	近い将来の市場第一部への上場を視野に入れた成長企業
	JASDAQスタンダード	814	一定の事業規模と実績を有する成長企業を対象
	JASDAQグロース	48	特色ある技術やビジネスモデルを有し、より将来の成長可能性に富んだ企業群を対象
プロ向け市場	TOKYO PRO Market	6	日本・アジアの成長企業

(2014年6月23日現在。各証券取引所HPを基に作成)

平成25年7月に東証と大証の統合があり、その際にコンセプトの共通する大証一部及び二部は東証と統合されましたが、新興市場はそれぞれコンセプトが異なるため当面は共存することになっています。

新規上場を狙う企業は、これらから自社に合った市場に標準を絞ってターゲット市場を決定しています。

3. 東証一部へのステップアップ

東証一部上場企業は知名度のある大企業が多く参加しているイメージがありますが、東証一部に上場するためには株主数や流通株式数、時価総額などについてより厳しい基準が設けられています。

新規上場にあたり、いきなり東証一部へ申請することも可能ですが、上場審査基準が厳しいため最初は東証二部や新興市場に上場し、そこから東証一部へ市場を変更することが一般的です。

終わりに

証券取引所や株式市場については様々な特徴がありますので、株式公開を検討されている経営者の方やこれから株式投資を始める方がいらっしゃいましたら、このような取引所の理解を深めたうえで株式公開のターゲット市場や投資対象の会社を選ぶことが重要でしょう。

(担当：坂下 尚弥)